

「趣味は旅行です」と高野さん。海外にも何度も行かれたそうです。いつまでもお元気で、旅行を楽しんでください。

児童からパワーを



たかの おさひこ
高野 茜彦さん（駅前町）

にこにこライフ

124



触れ合いが楽しい



おの みなほ
大野 美穂穂さん（岡豊町中島）

母と二人で暮らしています。家の隣にある畑で母がニラやネギ、小松菜などを作っています。これから母と一緒に玉ネギなどを作りたいと思っています。

市民からのお便り

先月の親子クイズ、大好きな果物なので、すぐ分かりました。当たっていいね！

市民からのお便り

先月の親子クイズ、最初に果物の名前をいくつかピックアップしてから解きました。間違いないと思いますが…。

親子クイズ 462

Q「ABCDE」を並べると？
＊ヒント…家庭で、学校で

タテ

- ①〇〇仏、〇〇写し、〇〇がい
- ②かけ算の唱え方
- ③〇〇〇焼（伊万里焼ともいう）
- ④本棚
- ⑤高知・徳島・香川・愛媛
- ⑥十二支の七番目

ヨコ

- ①脅かすこと
- ⑤〇〇を出す、〇〇を巻く、〇〇が回る
- ⑦飲んだり、塗ったりする
- ⑧証し
- ⑨秋田県横手地方の冬の行事

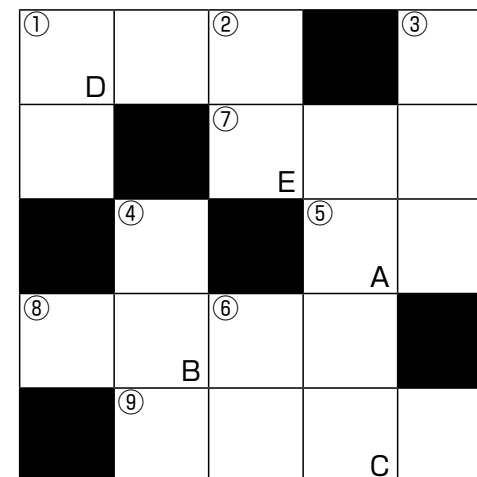
■応募締切／11月15日(月)必着

■あて先／〒783-8501

南国市大堀甲2301

南国市企画課「親子クイズ」係

■賞品／正解者の中から抽選で、5名に図書カード（1,000円）を贈呈



【第461回解答】

ミカン
ナシ
KIUI（キウイ）

【第461回当選者】

神田 奈美（篠原）
公文 涼太（幸町）
浜口 愛（十市）
町田 佳世（緑ヶ丘）
愛甲 賢一（久枝）

★応募総数／64通

★正解率／94%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

フライト・プラン障害者コーナー② ～共生社会を目指して～

このコーナーは、障害福祉の啓発活動を行い、誰もが共に助け合いながら生活していく「共生社会」を目指すものです。今回も、第2次南国市障害者基本計画の策定過程で行ったアンケートの結果を紹介します。

今回の質問は「受けたいサービスについて」です。移動手段や施設についてなどの要望が多くあるといえます。南国市では障害福祉サービスをはじめ、福祉タクシー券の交付など、さまざまな事業を行っており、今後もニーズに応じたサービス提供ができるよう努めていきます。また、「話し相手がほしい」などは周囲の方の協力で解決できる場合がありますので、皆さまのご協力をお願いします。

質問項目「どのようなサービスを受けたいですか？」	人数	割合
①特にない、必要がない	392	16.4%
②福祉タクシーなど外出時の送迎	258	10.8%
③家族が病気などの場合に短期間、施設に入所したい	224	9.4%
④介助者が不在の際に手助けを受けたい	171	7.2%
⑤ヘルパーによる家事援助	157	6.6%
⑤行動時や外出時の移動補助（付き添い）	157	6.6%
⑦通所施設での日常生活や集団生活での指導や訓練	122	5.1%
⑧話し相手がほしい	115	4.8%
⑨自立した日常・社会生活をするための訓練を受けたい	100	4.2%
⑩買い物や諸手続きの代行を行ってほしい	95	4.0%
⑪就労機会などを受けつつ授産施設や作業所で働きたい	80	3.4%
⑫生活上の便宜を図るための日常生活用具の給付	79	3.3%
⑬ヘルパーによる身体介助	77	3.2%
⑭一般的な相談のほか、専門的な相談をしたい	68	2.9%
⑮施設に入所し、入浴や排泄、食事の介護などを受けたい	65	2.7%
⑯一般就労を希望し、一定期間の訓練を受けたい	61	2.6%
⑰施設に入所し、機能訓練や療養上の管理などを受けたい	51	2.1%
⑱スポーツ・趣味活動などの相手や介助をしてほしい	48	2.0%
⑲共同生活を行いながらの日常生活上の援助	23	1.0%
⑳本や情報誌などの点訳や朗読を行ってほしい	8	0.3%
その他	33	1.4%

※お問い合わせは、福祉事務所社会係（☎880-6566）まで

不登校の子どもの数が増えています。南国市においても例外ではありません。不登校と言っても、一年間に30日以上欠席がある者のうち、その理由がはっきりしないものを総称しているだけで、原因は多種多様である。

最近、不登校を乗り越えた親子の話聞く機会が何度かあった。あるお父さんは言っていた。「目の前の子どもを否定しないことが大切で、今の状態は本人にとって何か意味のある、大切なプロセスではないかと受けとめるように親も努力する必要があると思うわけです」と。

ある大学教授の説明では、「不登校は、発達・成長上のもだえ。休んでいる状態。幼虫からサナギになった期間。そこを越えないと社会につながっていくけない。本人にとって大事なこと」ということだった。

学校現場ではどうか。元校長が言っていた。「教育に関わる人の中にも、不登校は家庭教育のせいだと言ったり、怠け者、子育ての悪さに映ったりしている場合がある。しかし、決してそんな理由で片付けていい問題ではない。今、特別に支援しないといけない状態なのだから、ほかの子とのバランスを考えることよりも、その子に

そのまま受け入れる

あつた特別な対応を考えていかなければならない」と。

学校でも、そのまま受け入れてもらえる居場所が必要だということではないだろうか。

一人一人のケースはすべて異なっており、どんな子どもにも不登校の可能性はあると言える。不登校になると、本人が一番しんどい。そして、本人だけでなく、保護者や担任の先生もしんどい。そのまま受け入れるということ、そのまわりにいる人たちが理解して一緒に見守っていかれたらいいと思う。同じく不登校を乗り越えたお母さんはこう話を締めくくった。

「不登校は大変です。身がよじれるぐらいに大変です。でも、必ず春はやって来ます。冷たい北風にあたらなと花は咲きません。今思えば、早く抱きしめてやれば良かった」と。

＊このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的にしています。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会
（☎880-6569）まで